

復興の在り方 東北から学ぶ



姜尚中氏
(かん・さんじゅん) 政治学者／熊本市出身／早稲田大学大学院修了／東京理科大学特命教授。県立劇場館長兼理事長／ラジオ番組「HEART TO HEART」5代目ナビゲーター



安田菜津紀氏
(やすだ・なつき) フォトジャーナリスト／神奈川県出身／上智大学文学部教育学科卒／中東、アフリカなど貧困問題のほか、東日本大震災以降は被災地の取材にも取り組んでいる

東京のFMラジオ局J-WAVEで放送されている東日本大震災復興支援ラジオ番組「Hitachi Systems HEART TO HEART」のトークショーが3月30日、熊本市中央区大江の県立劇場で行われ、53人が参加した。番組5代目ナビゲーターの姜尚中氏と、ゲストのフォトジャーナリスト・安田菜津紀氏が、これまでの取材やゲストとの対談を通じて、被災地の抱える課題や進むべき未来について思いを語った。番組は日立システムズが文化面からの復興支援を目的として提供しており、昨年度は「新たな豊かさを創造する」をテーマに、東北や熊本などの被災地を取材し、現状や復興への取り組みを伝えてきた。



プロデューサー・進行は、番組司会・デューサーを務めた森谷文晶氏

「今日は、3つのトークテーマに沿って進めます。最初のテーマは「故郷ってなに？」です。姜さん、このテーマを選ばれた理由を教えてください。」

姜 被災地を取材して、故郷という場所がどれだけ大切なのか痛感しました。故郷は自分の魂が置かれた場所だと思えます。その場所がなくなったり、離れざるを得なくなったりした人たちの思いについて考えさせ

懐かしさある未来設計を——姜氏 故郷を思う気持ちは普遍——安田氏

られました。世界ではグローバル化が進んでいますが、人はどこかに故郷を持っているし、例えば故郷から離れたとしても心の中に故郷は生きています。

安田 私は震災後、義理の父母が住んでいた岩手県陸前高田市に通っています。初めのうち、私は「おじゃまします」、地元の方々は「よく来たね」と挨拶を交わしていたのですが、いつしか「ただいま」「お帰り」に変わっていききました。そんなやりとりが無意識にできるのが、心の故郷ではないでしょうか。

姜 安田さんが取材に行かれるイラクやシリアには、自分の

に着なくなった服を集めてくださいました。「私たちは災害に遭ったけど、国を追われることはないから、シリアの子どもの方が大変だ」とおっしゃっていました。故郷がある日突然失われるという痛みを経験し、それを想像力として、同じ避難生活を送っている人に「恩送り」をしてくださいました。故郷を思う気持ちは、国境を越えて普遍的だと感じました。

「次のテーマは「ホッとする復興」です。二人にとって、ホ

といる言葉は印象に残りますね。先日、益城町を訪れた時に、地域の方が「建物が撤去されたり、新しい建物が建ったりして、それは復興への一歩一歩かもしれない。でも思い出さずやっています。陸前高田市ではかさ上げ工事を行っています、120mの山を切り崩して土を市街地に運び12mかさ上げしています。地域の方が「これは造っているのか壊しているのか分からなくなる」と話されています。新しい街づくりってどうあるべきなのか、未だに答えが見つかっていない気がします。

姜 少子高齢化は避けられない、資源も枯渇していく、という社会の中で、今後どんな未来があるのか考えると、もうちょっと「身の丈」で生きられないかと感じます。日本には「繕いの文化」があり、身の回りの物を繕って長持ちさせることに長けています。手元にある物を使っていくことが、「身の丈」に合った生活につながるのではないのでしょうか。



「Hitachi Systems HEART TO HEART」トークショー会場では、参加者が熱心に聞き入っていた＝3月30日、熊本市中央区大江の県立劇場

だいた、世界的建築家の安藤忠雄さんは、復興の街づくりについて「復興が進み子どもが頃から見てきた風景が失われると、自分たちの魂の居所がなくなっていく。合理的で便利になればいいという復興は間違っている」と話されていました。安藤さんは力強い建築物を数多く手掛けているモダン・ニームの権化みたいな人だと思っていました。姜 番組にゲストで来ていた

「最後のテーマは、「熊本が東北から学びたいこと」です。姜 主に三つあります。一つ目が故郷の魅力発見です。地域の人たちは、自分たちの良さを分かっていないと感じることが少なくありません。二つ目が「地域の課題を解決する社会起業家の育成」です。地域の課題を解決する社会的起業家が生まれている市町村は、元気があります。三つ目は、「外部との連携」です。外から人が入ってきて、それを地域の人が歓迎して相乗効果がかかります。宮城県石巻市牡鹿半島の小さな蛤浜に、亀山貴一さんが営む「はまぐり堂」というカフェがあります。地域では害獣といわれる鹿の肉を地産地消で料理として出すなど、ニューも工夫されていて、多くの人が訪れるスポットになっています。亀山さんは宮崎県の大学で学ばれていて、外の目で故郷を見てた。「こんな辺りなどころで」という先入観や常識を覆すことができたのは、自分の故郷のお宝を知っているからなんです。



トークショーは、取材映像や音声を変えて進められた

安田 私も何度か行きましたが、とても魅力的な場所です。山も豊かで目の前には海もあり、人がたくさん集っていました。通りすがりにたまたま見つけられるような場所ではないのに、これだけの人が集うなんて、いろんな知恵を絞って発信力を高めないと実現できなかったのではないかと感じました。

姜 グローバル化がとても速いスピードで進んでいますが、人は生きていく以上、身体的な時間と記憶を持っています。住む人たちの身体的な時間と記憶を大切にして未来を設計していかなければ、結局、人が住みにくい街になる。過去には戻れないけど、未来に向けて「懐かし」どこか思えるような街づくり、都市づくりをめざしていく必要があると考えます。